

# 台風委員会ワークショップ

吉柳岳志\*



会議風景

## 1 はじめに

去る9月5日から8日の日程で、台風委員会水文部会のワークショップがマレーシアのクアラルンプールで開催されました。

今回はこのワークショップについて報告します。

## 2 台風委員会

台風委員会 (Typhoon Committee) は、国連アジア・太平洋経済社会委員会 (UNESCAP) と世界気象機関 (WMO) の共同で作られている組織で、東アジア・東南アジアの国・地域が参加し、洪水や台風の気象観測などに対する取り組みを行っています。

台風委員会には、現在3つの部会 (気象、水文、防災) があり、気象観測等の充実・発展、水文観測や洪水解析の技術向上・発展などのための情報交換やプロジェクトでの技術的な検討が行われています。

今回の会議には、カンボジア、中国、マレーシア、香港、韓国、北朝鮮、ラオス、フィリピン、シンガポール、タイ、アメリカ、ベトナム、日本から参加があり、東アジア・東南アジアの多くの国・地域が参加する会議となっています。それぞれ、各国の研究機関、行政機関 (気象担当、防災担当) が参加しており、気象観測、洪水、防災などの技術についての検討と情報交換が行われています。

## 3 土砂災害に関係する取り組み

台風委員会では、気象部会、水文部会、防災部会の3つの部門での活動があり、今回は、このうちの水文部会のワークショップとして開催されました。

水文部会では、洪水ハザードマップ、洪水予測や

\* (財) 砂防・地すべり技術センター砂防技術研究所  
 上席研究員兼次長

土砂災害の予警報などのプロジェクトが行われています。砂防関係では、日本が、土砂災害の予警報技術に関するプロジェクトの座長を務めており、土砂災害に対する予警報システムを各国に構築することを目指して取り組まれています。

これまで、このプロジェクトでは、土砂災害に対する警戒避難基準の設定手法など、土砂災害に対する予警報技術について、その設定手法などの技術を紹介し、これを基にして各国で警戒避難基準について、パイロット地区を設定して検証することにより、問題点等を検討することとしています。

このプロジェクトは、2005年までの予定となっており、その後、各国においてパイロット地区以外の地域にも広げていき、土砂災害に対する予警報システムを構築することとして進められてきました。

今回のワークショップでは、マレーシア、中国から、パイロット地区での取り組みが報告されていますが、現状では、雨量計などの機器の設置や情報システムの整備・維持管理コストなどの点で、思うように進展していない国も見受けられる状況です。今後、これらの国に対して、どのような仕組みで進めていくかが課題となっています。

## 4 土石流の危険区域設定手法についての 現地検討会

今回のワークショップでは、予警報システムに関する各国の報告のほか、土砂災害の予警報技術に密接に関わるものとして、土砂災害を受けるおそれのある危険区域の設定手法について、現地検討会が行われました。前回の会議において、区域設定手法に関する資料が配られており、今回は、再度その内容を紹介するとともに、現地検討会において、その手法を実践して検討することとしています。

現地検討会は、クアラルンプールの郊外において、土石流の危険区域を想定して行われました。事前に

この地区での区域設定事例を作成し、土石流の氾濫開始地点や流下する方向・広がりなどを現地で見ながら、区域設定手法についての検討が行われました。現地検討会では、地形が以前と比べて改変されてしまっているなどの状況もありましたが、積極的な討議が行われ、有意義なものになったと思います。また、土砂災害の危険箇所が住宅地に改変されている状況は、このような危険箇所の区域設定と周知ということの意義をあらためて確認する場ともなったと思います。

## 5 今後の取り組み

今後は、土砂災害の予警報に関するプロジェクトを拡大し、危険区域の設定方法に取り組んで行くことが提案されています。また、警戒基準雨量の設定技術についても、引き続き、日本からの助言・支援を行う体制を続けることになるものと考えられます。

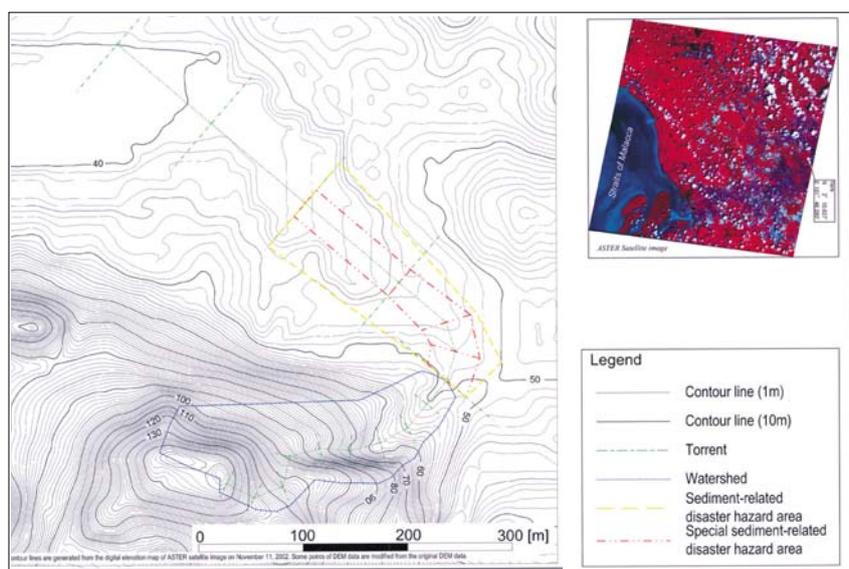
## 6 おわりに

台風災害に対する施策や技術は、東アジア・東南アジアの各国においても、大きな関心を持って取り組まれています。一方で、国によっては、水文観測等の基本的な情報基盤が十分でないところもあり、災害対策に関する基礎的な体制を整えることやその国の状況にあわせた技術に変換して提供していくことも非常に重要であると感じました。また、現地検討会で訪れた場所は、まさに住宅地の開発が行われているところであり、土砂災害の危険性が十分知られずに住宅の立地が進んでいくことの危険性もあらためて感じました。

今回の会議に参加し、日本で行われている技術・施策について、より詳しく海外に紹介して技術移転を図り、各国の施策に取り入れられることで、土砂災害による被害の減少・軽減に寄与していくことが必要であると感じました。



現地検討会のひとこま



現地検討会の実施箇所